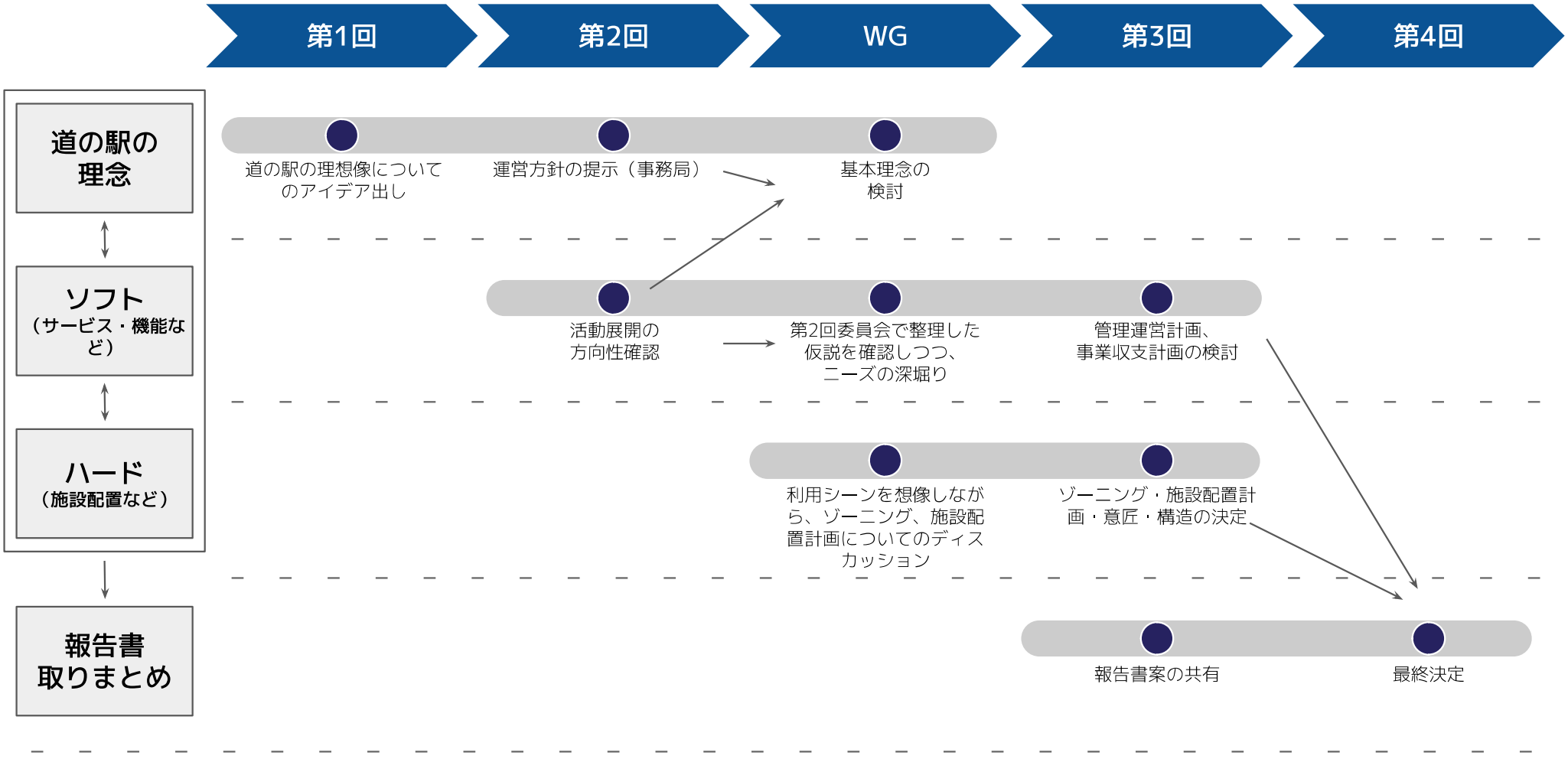
各委員会で検討する内容

資料-0



●本日の会議（第2回委員会）で実施すること

- 道の駅の運営方針（事務局案）に対する意見をいただく
- 活動展開の方向性についてご意見をいただく

概算交通量と概算面積

■概算交通量
（八十里越区間開通後）

現況交通量の算出（H27 年度交通センサス）	＋	国道 289 号の**転換交通量増**に伴う前面道路の交通量増加分（H30.11 北陸地整資料）	＋	国道 289 号の**誘発交通量**発生に伴う前面道路交通量増加分（Ｗｅｂアンケート）	＝	前面道路の将来交通量
2380 台 / 日		**683 台 / 日増加**		**204 台 / 日増加**		**3267 台 / 日**

※転換交通量：新規道路の整備によってこれまで別ルートを利用していた人が当該道路を利用する交通量

※誘発交通量：新規道路の整備によって新たに発生する需要交通量

■駐車場の概算規模

前面道路の将来交通量　**3267 台 / 日**

↓

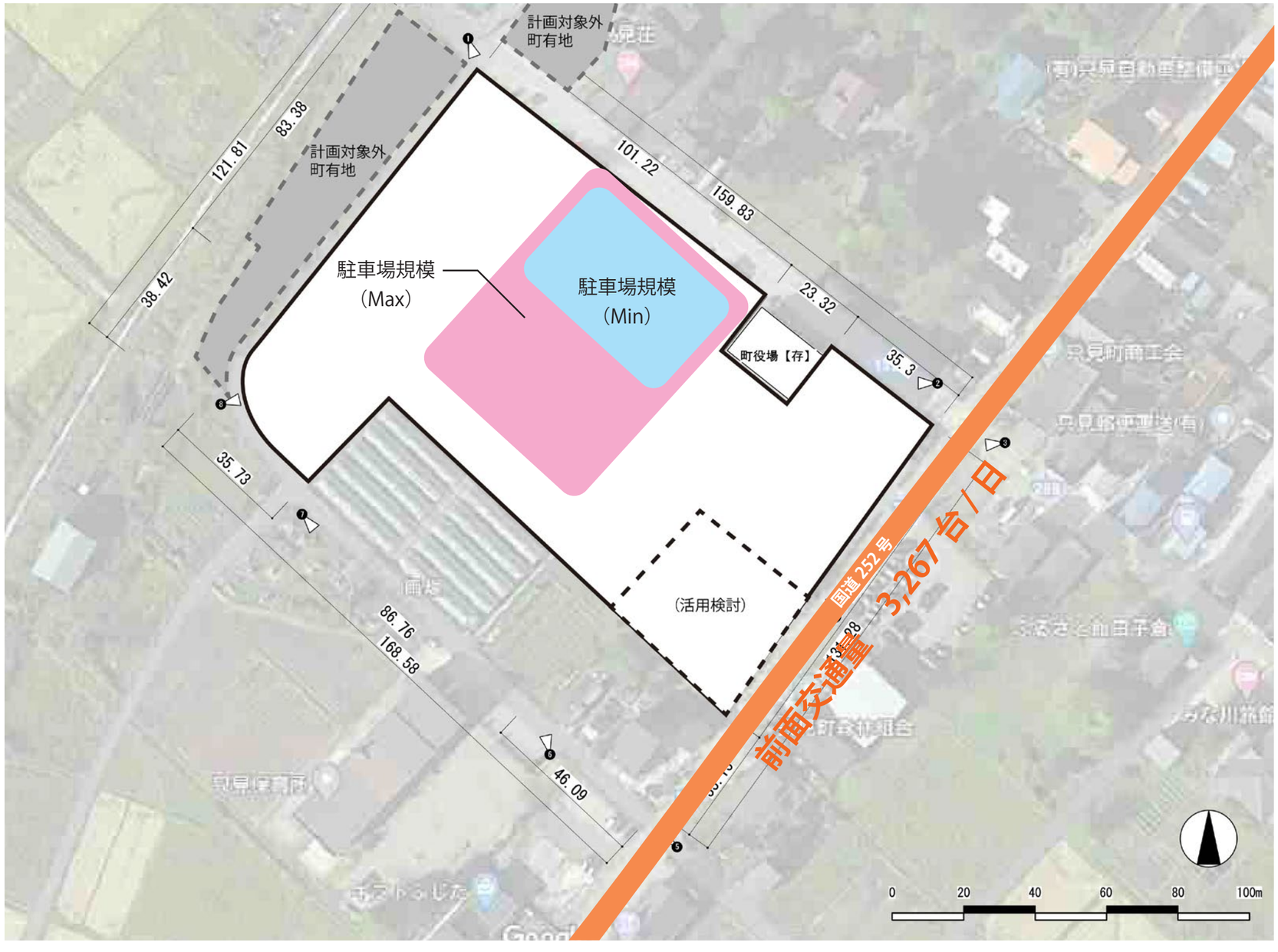
駐車場規模（Min）
小型車　30 台
大型車　12 台
約 2,400 ㎡

（NEXCO 設計要領による、係数はサービスエリアのものを採用）

駐車場規模（Max）
小型車　78 台
大型車　7 台
約 3,400 ㎡

（NEXCO 設計要領による、係数は国交省　「道の駅」利用状況調査 H28 ～ 30　の平均値を採用）

※右図の駐車場表記は、駐車場の面積をイメージしていただくものであり駐車場位置については確定したものではありません。



概算交通量と来訪者数、売上の予測

■概算交通量
（八十里越区間開通後）

現況交通量の算出
（H27 年度交通センサス）
2380 台 / 日

＋

国道 289 号の**転換交通量増**に伴う
前面道路の交通量増加分
（H30.11 北陸地整資料）
683 台 / 日増加

※転換交通量：新規道路の整備によって
これまで別ルートを利用していた人が
当該道路を利用する交通量

＋

国道 289 号の**誘発交通量**発生
に伴う前面道路交通量増加分
（Ｗｅｂアンケート）
204 台 / 日増加

※誘発交通量：新規道路の整備によって
新たに発生する需要交通量

＝

前面道路の
将来交通量
3267 台 / 日

■1 日の来訪者数

前面道路の将来交通量　**3267 台 / 日**

↓

駐車場規模（Min）　**366　人 / 日**

（ピーク月の町内来訪者数 / 平均月来訪者数＝40.3%）

駐車場規模（Ave）　**908　人 / 日**

（3,276 台 ×21.7%÷ 同乗者数＝908 人 / 日）

駐車場規模（Max）　**1,623　人 / 日**

（ピーク月の町内来訪者数 / 平均月来訪者数＝178.7%）

■物販および飲食利用者

■ Web アンケート結果
「何を目的に道の駅に立寄りますか？」

		%	日利用者数	
	全体	100.0		
1	トイレ	85.0	771.8	人/日
2	休憩	48.3	438.6	人/日
3	**買い物**	**22.7**	**206.1**	人/日
4	**飲食**	**22.3**	**202.5**	人/日
5	情報案内	9.7	88.1	人/日

■平均単価

＜直売所＞
平日客単価　1,050 円前後
休日客単価　1,180 円前後

（出典：農林水産物直売所・実態調査報告 2018）

＜飲食店＞
昼食客単価　903 円
夕食客単価　2,860 円

（出典：町内飲食店実態調査結果及び考察等）

■売上予測

＜直売部門＞
206 人 ×1,050 円＝21.6 万円 / 日
21.6 万円 ×365 日＝**7,894.5 万円 / 年**

＜飲食部門＞
203 人 ×903 円＝18.3 万円 / 日
18.3 万円 ×365 日＝**6,690.8 万円 / 年**

■ 平成 30 年度　只見町への観光来訪者数

月最小来訪者数　8,789　人（40.3%、12 月）
月平均来訪者数　21,792　人（100.0%）
月最大来訪者数　38,940　人（178.7%、10 月）

■ 平成 27 年全国道路・街路交通情勢調査　同乗者数

小型車　1.31　人 / 台
大型車　1.07　人 / 台

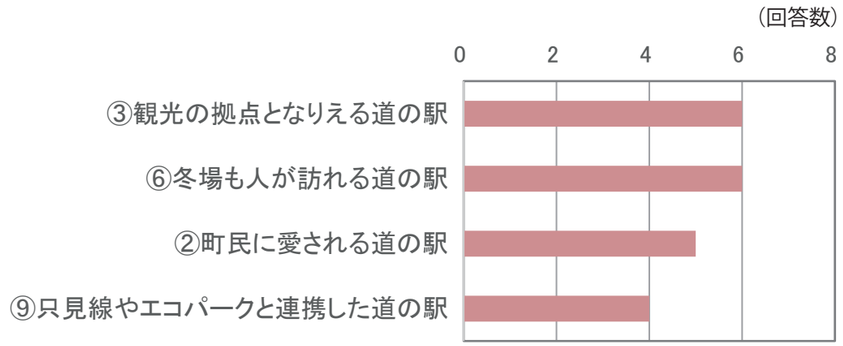
※上記の売上予測は、町外の人を対象としたもの。
※町内の利用によってどのくらい上乗せできるか。

資料-2

只見町道の駅に必要な事項のまとめ　～「只見町　道の駅　機能・役割等提案書」より～

道の駅に対する期待

只見町の道の駅において特に重要と思われる事項（大問１、問２）



●道の駅に求められる機能：地域センター機能とゲートウェイ機能の両立
冬場に利用される施設
他事業との連携

只見町の課題

町民向けの施設・設備で不足しているもの（大問２、問２）

屋内遊び場施設（3）
子どもの遊び場（3）
ドラッグストア（3）
イベント施設（2）
コンビニ機能（2）
図書館（2）
薬局（2）
ATM
温水プール
カフェ
休憩場所
行政サービス
自然素材を使った活動施設
デマンドタクシー

観光客向けの施設・設備で不足しているもの（大問２、問２）

喫茶施設（5）
観光施設（4）
案内施設（3）
飲食施設（3）
休憩施設（3）
家族連れが過ごせる施設（2）
子供用スペース（2）
時間をつぶせる場所（2）
Wifi環境の整備
お土産
クレジットカードが使える店
トイレ
ビューポイント
ブナ林を楽しむ
ユネスコパーク
街灯整備
救急対応施設
給水ポイント
公園施設
車中泊施設
体験施設
鉄道ファン
道路の整備
二次交通
物産販売

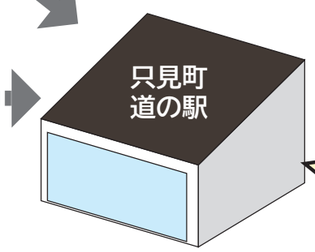
●地域センター機能として求められる機能：子どもの遊び場、日用品の販売、文化施設、イベント
●ゲートウェイ機能として求められる機能：時間のつぶせる観光施設・喫茶店など、エコパークなどの発信拠点、二次交通

（参考）只見町振興計画において重要度が高く満足度の低い施策

重要度 2.5 以上、満足度 1.0 以下の施策

1. 独身者向けコミュニケーション、話し方セミナーなどの実施 / **2.** 広域での異業種間交流による出逢いの場の創出 / **3.** 後継者・親御向けセミナー / **4.** 花嫁・花婿対策事業の実施 / **7.** 思春期保健学習への取り組み / **8.** 来院患者の病状等を的確に医師につなぐ診察システムの確立 / **10.** 3 地区の地域づくり委員会や自治振興会の合同会議による情報連携 / **11.** 二次医療圏内・関係自治体との連携 / **12.** 新たな販売ルートの発掘と産直・直売の実施とインターネットの活用 / **13.** 人材センターからの派遣による繁忙期等の人手不足の解消 / **14.** 国道 289 号八十里越開通を見据えた中心市街地の整備

●道の駅で担える機能：只見町の良さを発信する
関係人口増加のきっかけをつくる



只見町道の駅に必要な事項のまとめ

地域センター機能

子どもの遊び場
日用品の販売
文化施設
体験活動
イベント

ゲートウェイ機能

連続する関係
カフェ・休憩
情報案内・発信
只見町の良さを発信
二次交通
只見線・エコパークとの連携
関係人口増加のきっかけづくり
DMO

冬期の利用

ケ（日常）⟷ ハレ（非日常）

●ハレの場だけでなく日常的な生活環境の改善への寄与が求められている
●町内に展開する観光の拠点だけでなく、関係人口増加への寄与が必要である
●冬期の利用促進が必要である

連携可能な資源・人材・施設

連携先の施設など（大問３、問１）

2次交通の充実（バス、エコバス、周遊バス、レンタサイクル）（7）
只見スキー場（3）
宿泊施設（2）
ブナと川のミュージアム（2）
まち湯（2）
只見線（只見駅、鉄道）（2）
キャンプ場（2）
観光地
既存の店舗
ふるさと館田子倉
三石神社
ミュージアムショップ
ユネスコエコパーク
猟友会
一般町民
小・中・高校
食事処
JA
観光協会・DMO
森林組合
只見振興センター
田子倉レイクビュー

※回答の中には未整備のものも含まれます

●連携すべき施設：
・町内の観光施設
・只見線
・ユネスコエコパーク

●連携すべき人：
・町民、農林業事業者

●連携の促進に必要なインフラ：
・二次交通、集荷システムなど
・観光地域づくり法人（DMO）

資料-3

只見町道の駅　将来像のまとめ　～「只見町　道の駅　機能・役割等提案書」より～

地域センター機能

将来像として期待したい「場面」

＜暮らしの一部として季節を問わず親しまれている場面＞

・冬場に／家族が／遊戯場とショッピングスペースで／子供は遊んで、親はゆっくり買い物をしている。

・毎日、地元の人が、ゴミのリサイクルコーナーに訪れ、家庭のゴミの分別などをそこで行い、それが地域資源に還元、活動が町の維持に寄与しているという誇りを持って暮らしている。

・平日／子供、学生／カフェスペース／友達とくつろいでいる

・週末／家族連れ／物販及びカフェスペース／買物、軽食事、休憩、遊び、イベント参加

・屋外広場で子供たち(家族連れ)が、春は芝生の上で遊び、夏に水遊び、冬に雪遊びをする。

・例題に書いてあるようなことがベストだと思いますが、冬どうしたら子供が来てくれるのか考えていかねばと思います。

・毎週末、小さい子どもを連れた家族が、夏は水辺で、冬は雪で、時々室内を利用しながら、遊びながらリラックスできる場所。

・冬場に子供が道の駅(室内)で足りまわって遊んでいる。

・小動物(リス・ウサギ等)を飼育し、直接エサを与えたり、触ったりすることもできる(子供だけでなく大人も楽しめる)。

・中学生や高校生が、夏休みや夕方、勉強や友達と会うために、只見線が見えるスポットでwifiを使用しながら、只見線を見ながらお茶している。

＜町民が皆で道の駅を育てていく場面＞

・いつでも・情報の常駐、通信したい時／・町民がいつでも立ち寄り、頼りたい拠点のとして(例. 住民サービスのサブステーション機能)／・安心して出入りでき、利用できるよう、町民を迎え入れられる施設／・町民がいつでも集い、商いや雇用創出の場として裾野を広げる仕組で成長していく施設(単なるインフラではなく、育てていくというマインド)

ゲートウェイ機能

将来像として期待したい「場面」

＜地域外の人が只見町の自然やエコパークを知り楽しんでいる場面＞

・町内の民宿に泊まった只見町クラブ(架空)の会員が、道の駅の交流施設にある体験工房を定期的に訪れ、すっかり仲良くなった地元の師匠チームから自然素材を使った製品づくりを継続的に学んでいる。同行の家族は、今回はイワナの里で釣りを楽しんでいる。

・初めて只見町を訪れた家族連れは、道の駅内に掲示されている町内の商店・施設・体験の森(仮称)などの位置を確認し、これから出かけるスポットを決めたようだ。町の観光協会のHPにアクセスすると魅力的な紹介動画で目的地が紹介されていた。

・フクジュソウなど春植物を見に訪れた観光客は、道の駅内に掲示された全国10カ所のユネスコ・エコパークのマップの前で、只見町の産品とともに展示された各地域の特産品を買い求めている。この後、ブナセンター館を訪ねようと話している。

・常に、地域外の人が、この道の駅に行けば、「只見ならではのもの」を買うことができたり、食べることができたりするだけでなく、郷土芸能のステージが開催されていたり、ツル細工のワークショップが催されていたりして、地元の人と交流をすることができる場となっている。

＜情報拠点となり地域外の人材を受け入れている場面＞

・いつでも・情報の常駐、通信したい時／・域外の来訪者が、目的地として、周遊のゲートウェイとして必ず立ち寄る／・域外来訪者にとって種々の情報を出し入れできる施設であり、それに相応しい設備を備える(例. ビジネススタイルのフリーアドレス化を支える通信・テレワーク環境の提供等)／・来訪者は、只見の応援団として支えてくれるような関係性の醸成を目指す

＜イベント等の賑わいの場面＞

・冬場にも町外の方が道の駅を利用してくれる。活気がある。

・年間を通して広場でのイベント等で町内外の人の交流が行われる。

・定期的にイベントが開催され、町内外の方が体験や交流している。

・観光客が立ち寄りたくなり、地域の人があって欲しいと思う施設。

＜只見町の自然資源を活かした商品を開発、販売している場面＞

・ブナ林の紅葉を見に訪れた観光客が、期間限定の「世界のブナ林エコパーク特集」で、合衆国東部アパラチア山脈のブナ林の写真と解説を見ながら、只見町エコパークと交換販売されているアメリカブナ林の自然素材で作られた産品を買い求めている。エコパーク巡りをしている外国人の姿も見られる。

・2mの積雪のなか、交流施設の工房では今週も訪れた町内の子どもたちが、染色クラブ(架空)の先生に教わりながらブナ染めを楽しんでいる。その間、保護者は編み込みクラブ(架空)の先生からアケビ篭やヒロロのバッグ作りの基礎を学びながら、道の駅で次に販売する新製品のデザインを考えている。

・四季を通じて町民はもとより、訪れる人たちに飽きが来ないよう施設を固定するのではなく、どんな小さなことでも良いから常にリニュアルを考えて行くべきであり、特に食の関しては、地元の食材と他の物をコラボさせながらグレードを上げたものを生み出すべきであり、更には地域ではなかなか食べられないスイーツ等も研究し、人を引き付ける目玉づくりをして行くべきである。

只見町道の駅の将来像

・暮らしの一部として季節を問わず親しまれている場面

・町民が皆で道の駅を育てていく場面

・地域外の人が只見町の自然やエコパークを知り楽しんでいる場面

・情報拠点となり地域外の人材を受け入れている場面

・イベント等の賑わいの場面

・只見町の自然資源を活かした商品を開発、販売している場面